

風土記の丘の花だより¹⁹⁵

今、そしてこれから見られる植物(2023年7月22日)

連日の猛暑は、もはや「異常気象」と言うしかないのでしょうか。テレビでは連日豪雨と猛暑の報道がなされています。耳にたこができそうですが、みなさんくれぐれも熱中症対策は怠りなきよう留意しましょう。



クサギの花が咲いています。「臭い木」がその由来ですが、それは葉のにおいで、花はなかなか良い香りです。その香りにつられて大きなアゲハチョウの仲間が集まってきて、盛んに蜜を吸っています。クサギはちょっと前まではクマツヅラ科でしたが、この頃はシソ科に分類されています。でも、どっちにしてもクサギはクサギ、学者先生方には関係あっても、我々素人にはどっちでもいいことですよね。葉のにおいを除いて、華やかな花も、鮮やかな実も美しいクサギは、もっと高い評価を受けてもいいはずですが、やっぱり、あの臭いがいけないのでしょうか。



万葉植物園の東(左)側で、セリの小さな白い花が見られます。春の七草の一つで、水がぬるむ頃に「せり出す」ように生えてくるのでこの名前が付きました。ニンジンやパセリなど、香りが強いセリ科の植物の代表のような植物です。それで、セリ鍋ではその香りとシャキシャキした食感が楽しめます。セリの近くに背の高い草が花火のような花を付けていますが、それはアブラガヤです。また、葉が3つに分かれているのはアギナシという植物です。



「居明かして 君をば待たむ ぬばたまの わが黒髪に 霜は降るとも」など、万葉集でよく詠われている「ぬばたま」はこのヒオウギの実のことです。真っ黒なので、黒や闇、夜などの枕詞として使われます。一方、花は写真のように鮮やかなオレンジ色で、赤い斑点が散らばっています。また、黄色くて、斑点のない花もあります。ひおうぎは「檜扇」のことで、祭りや神事などに用いられるヒノキで作った大きな扇です。葉の付き方がそれに似ているのでこの名前が付きました。



ヘクソカズラが咲いています。「へくそ」は漢字で書くと言うまでもなく「屁糞」、なんとお下品な、と言うなかれ、別名は「早乙女葛・さおとめかずら」、なんとすてきな名前でしょう。でもこの草をそんなに呼ぶ方に、まだお会いしたことはありません。花の中が赤いので「やいと花」とも言うそうですが、この草の悪臭をかぐと、やっぱり「屁糞」が一番似合いそうですね。「屁糞葛も花盛り」 松下